



出前講座報告書



福島県立医科大学

性差医療センター
災害医療総合学習センター
医学部公衆衛生学講座



平成27年9月11日 福島県北保健福祉事務所

今回の研修は、国際放射線防護委員会(ICRP)からご支援いただいた特別企画で、海外から講師をお招きしました。ベラルーシの地域保健活動とノルウェーの食品安全対策について学びました。日本と国の情勢も政策も、放射線の汚染の程度も違いますが、地域のつながりを大事にする長期的な取り組みが必要である基本は共通です。

講義1

「ベラルーシ共和国における
母子保健活動」



ストリン地区中央病院医師
ライサ・ミシウラさん

講義2

「食品管理における放射線防護と
社会的側面」



ノルウェー放射線防護庁
アストリッド・リーランドさん

話し合い

残念ながら大雨のため、話し合いまで参加できる参加者は少なかったのですが、理解を深める話し合いができました。2グループとも、長期的な取り組みの必要性が話題に上がりました。その他、「信頼」と「コミュニケーション」が話し合いのキーワードでした。



「地道に気長に支援していかなければと思った」



「海外の状況が知れて、30年間のとりくみを続けているということが聞けて心強く思いました」
「あきらめないで続けること！！」



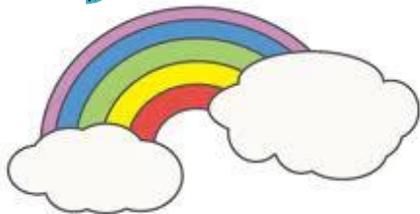
アンケート集計結果

参加者は18名、アンケート回収は10名でした。

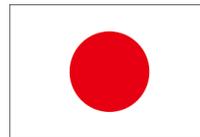
評価項目	「そう思う」*
研修の資料や進行について 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった	60% 90% 70%
体験したプログラムについて 海外の取り組みについて理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う 話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	80% 90% 100%

* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

復習ポイント



- ・ベラルーシの地域保健活動のポイントは？
- ・ノルウェーの食品安全管理のポイントは？
- ・自分の活動に使えるようなポイントは？



編集後記

通訳を介しての講義と話し合いで、運営上の課題が多々ありましたが、大雨の中、皆様のご参加ありがとうございました。違う国、違う文化の事業は、そのまま日本に輸入できるわけではありませんが、その根底にある心意気のようなものが伝わってきたのは、実際に活動してらっしゃる講師の方々が目前で話してくださったからこそと感じました。国際放射線防護委員会のご支援に感謝申し上げます。（後藤）



出前講座は「福島県保健師現任教育指針」の枠組みで行っています。